

グレートピックス

北海道立林業試験場

No.36

グイマツ雑種F₁の新ブランド紹介

林齢29年生の試験林の間伐材(写真-1)を調べた結果、疎植で速く太らせても材質低下の心配がまったくない家系(特定の親木からできる兄弟群)を発見しました。年輪は春から夏にできる密度の低い早材と夏から秋にできる密度の高い晩材が交互に重なりあっており、カラマツ類では、早材から晩材への移行は急に起こるのが一般的です。ところが早材の段階から密度が高まる家系では、年輪幅が広がっても材の強度が落ちません。

材の密度は材色の濃淡と関係が深く、軟X線写真から材密度を読み取ることができます(写真-2)。図-1には早材の段階から密度が高まる家系(上段:中標津5×空知3)とそうでない家系(下段:宗谷1×上川2)について髓から外側に向かって10年輪分の材密度の変動を示しています。
(林業経営部主任研究員)



写真-1 試料を採取した試験林と試料の丸太
(29年生、美唄市)

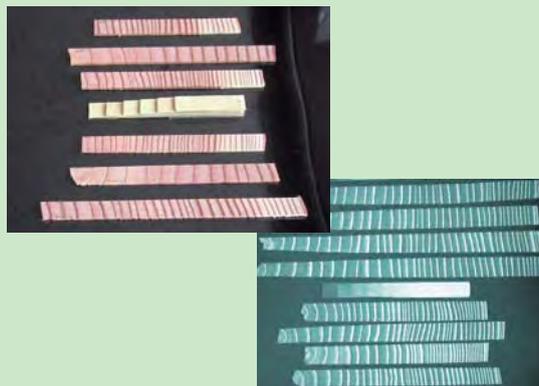


写真-2 年輪の材密度測定用試料(上段)と
軟X線写真(下段)

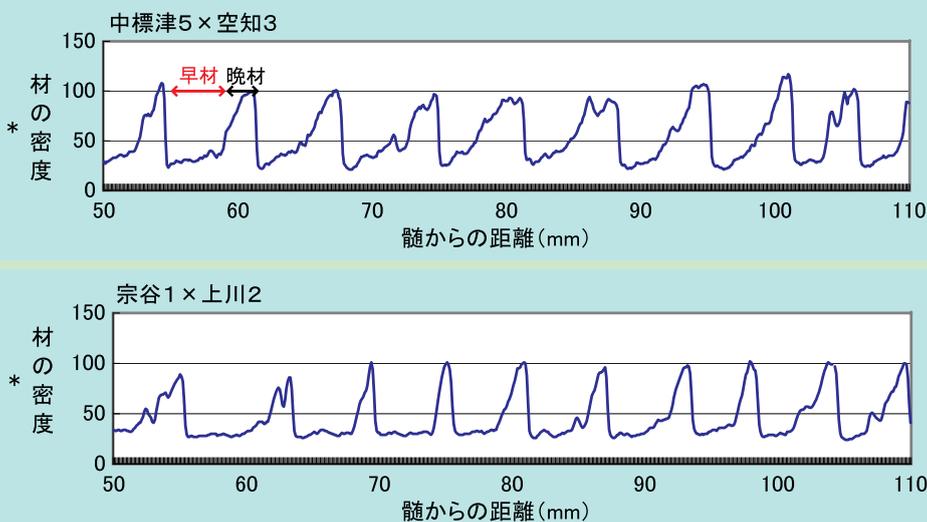


図-1 グイマツ雑種F₁家系の年輪による材密度の変動(10年輪分)

*単位: $g/cm^3 \times 10^{-2}$